

令和7年度 京都府立山城高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>①自主・自立の精神を高め、強い意志を持って自らの進路を切り拓き、より良き社会の実現に向けて行動する主体的人物を育成する。</p>	<p>①大多数の生徒は、学習はもとより学校行事、部活動等に意欲的に取り組んでおり、今後より一層、学校行事の改善を進めていく。また、欠席過多の生徒に対し、様々な手段により支援に努めたが、学校を軸とした基本的な生活習慣を確立させていくことの重要性がさらに高まっている。</p>	<p>①一人一人の生徒を大切に、基本的な生活習慣を確立させるとともに、欠席過多生徒に対する支援に努める。授業、学校行事、部活動等あらゆる教育活動の場で、生徒がいきいきと活動することで、学力の向上はもとより豊かな人間性を育む。また入学者選抜制度の改革への対応や府立高校改革に向けたスクールポリシーの検討を行う。</p>
	<p>②生徒が自らの進路を考える機会を設定するとともに、学力向上に向けた様々な取組を進めており、前年度も高い進学実績を残すなど大きな成果を収めている。今後も生徒の高い進路希望の実現に向けて、切磋琢磨しながら支え合う学習集団を形成していくことが大切である。</p>	<p>②生徒が自分を社会の一員として俯瞰的に捉え、自立的・主体的な自らの生き方を展望することにより、高校生活や卒業後の自分の姿を描く機会の充実を図る。また生徒が切磋琢磨しつつ、互いに支え合い認め合う集団作りを行い、自身の学力向上、希望進路の実現に向けて取り組む。</p>
<p>②学習活動と部活動・学校行事等の双方に、生徒が高い目標を設定して主体的に励むことで、誇りと品格を持つ人間として成長を遂げる、質の高い文武両道を推進する。</p>	<p>③部活動加入率は非常に高く、多くの生徒が質の高い文武両道を目指して活動し、文化祭等の学校行事にもエネルギーを持って取り組んでいる。今後もこの学校文化を継承・発展させていく。</p>	<p>③部活動指導指針をもとに、質の高い文武両道の推進に向けて、教職員間での必要な情報や意識の共有を図る。また文武両面において、効果的な指導方法の研究及び環境の改善を進め、生徒の活動の活性化を図る。</p>
	<p>④学習と部活動の両立を図っていく取組を行い、多くの生徒が学習時間確保に努めた。一方で、計画的、自主的な学習に課題のある生徒もいる。生徒に授業を大切にする意識を高めさせ、より一層の学力の向上に努める。またワールドワイドパイオニア育成事業は、ドイツ派遣事業、訪日校の受入、海外研修旅行等により推進を図ることができた。</p>	<p>④質の高い文武両道の推進に向けて、日々の授業を大切に、生徒が高い目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持つことによって学力向上及び希望進路の実現につなげる。また、ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの一層の充実を図るとともに、グローバルネットワーク京都に係る事業等、指定研究や外部事業を効果的に活用する。</p>
<p>③教育のプロとして専門性を高めるとともに、授業方法を検証・改善し、質の高い授業を展開する。</p>	<p>⑤ICTの効果的な活用について、授業デザインチームを中心に、教員が情報を共有、協議する枠組みの研究を行い、成果を上げることができた。また随時研修会を実施し、より効果的な活用法について教員間での共有を進めた。指導と評価の一体化による授業改善及び評価の在り方については、継続的な研究と取組が必要である。</p>	<p>⑤学習指導要領の趣旨に基づき、指導と評価の在り方及び教育課程について検証を行い、改善に向けて取り組むとともに、生徒の探究的な学びをより推進する。また授業デザインチームを中心とする指導方法の研究及び授業や校務等における学校のDX化の推進に向けた取組を進める。</p>
	<p>⑥日常の業務の中で、働き方改革を意識してその質を高めることができるよう改善の方策をさらに進めていく必要がある。</p>	<p>⑥教職員の教育活動の充実につながるよう、常に改善の視点を持ち、業務の見直しを図る。教職員が働きがいを感じながら、日々教育活動に当たることができるような働き方改革に努め、業務の質を高める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題
組織・運営	業務の的確な実施・検証	業務改善のさらなる推進 入学者選抜制度への対応を定め、府立高校改革への本校の在り方を検討	1	A	中学校訪問を実施し魅力発信に努めた。通知表の所見欄を廃止し業務改善に努めた。
教育課程	本年度学校経営の重点⑤	教育課程及び評価の在り方についての検証と改善	2	B	観点別評価の検証について教科主任会等を通じて行った。
学習指導	同重点④⑤	生徒の主体的な学習を促すとともに、知識・技能、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに協働によって課題解決力を高める授業や指導の実践	3	B	ICTや生成AIの活用は定着しつつあるが、効果の検証や問題点の改善が課題である。
		ICTの活用による指導の在り方についての研究、実践	4	B	
文理総合科教育	同重点④⑤	英語運用力・探究力の伸長と効果検証	5	A	グローバルネットワーク京都交流会・学びのWEBラボで英語による探究内容の発表を行った。探究テーマの精選が検討課題である。
		専門学科の特性を活かし、学年を越えての連携を深める取組を実施	6	A	
進路指導・キャリア教育	同重点①②④	将来の目標を見据え、高い目標を持ちながら、社会と自己を結びつけた主体的進路選択とその実現を図る指導の充実	7	B	進路実績が充実する一方、今後益々多様化する進路選択へ対応する体制づくりが必要。
特別活動	同重点①②③	部活動、学校行事、生徒会活動等における生徒の主体的な活動の促進	8	A	体育祭の体育館実施などの工夫と部活動の一層の活性化が図れた。
生徒指導	同重点①②	基本的生活習慣の定着、よりよい集団づくりのための指導を推進	9	B	遅刻指導や服装指導等、日常の指導に課題が残った。
国際理解教育	同重点②④	ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの一層の充実	10	A	様々な交流の充実は図れたが、対応への負担軽減が課題。
外部連携	同重点②④	高大連携事業のさらなる充実と外部人材の積極的活用の推進	11	B	高大連携事業や外部人材を活用し各種研修会を実施した。
人権教育 特別支援教育 聴覚障害教育	生徒の人権意識の向上、特別な支援の必要な聴覚障害教育等の継続的实施	様々な困難がある生徒の社会的自立を支援し、進路保障の取組を推進	12	B	人権学習や聴覚障害教育アッセンブリーを通して障害に対する理解促進、人権意識の向上を図った。
		全校生徒への聴覚障害の理解促進や人権意識の高揚を図る学習活動の充実	13	A	
健康・安心・安全	生徒の健康・安全の確保に向けて、指導・整備の更なる充実を図る	自転車事故防止及びSNS等による様々な危険に関する意識啓発の強化	14	B	オンライン授業において生徒支援に努めた。 大きな自転車事故やSNSトラブル等無く過ごせた。
		欠席過多生徒への支援の充実、事故や災害発生時の迅速かつ的確な対応	15	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	ワールドワイドパイオニア育成プロジェクトの充実及び文科省DXハイスクール指定を受け学校のDX化が進められたことは評価できる。今後は、生徒募集に関して学校独自の魅力をどのように発信してか課題であり、一層の広報活動に努める必要がある。
-------------------------	---

次年度に向けた 改善の方向性	学校安全に係る防災・減災教育の必要性と、施設設備の充実に向けた取り組みをできるところから取り組んでいく。
-------------------	--